時空間処理と自律協調型防災システムの実現

研究代表者:　東京工業大学　角本　繁

防災システムの実装・定着化

個別要求を個別に実装→共通機能で実現→定義で要求機能を実装できるシステム

平常業務、平常時利用に適用するシステムの構築
特定応用向けの専用システム
→STABLE(汎用的な共通基盤＋共通応用システム)

平常業務へ適用

地域の要求に応じた防災機能を構築
STABLE(平常時応用＋防災応用)

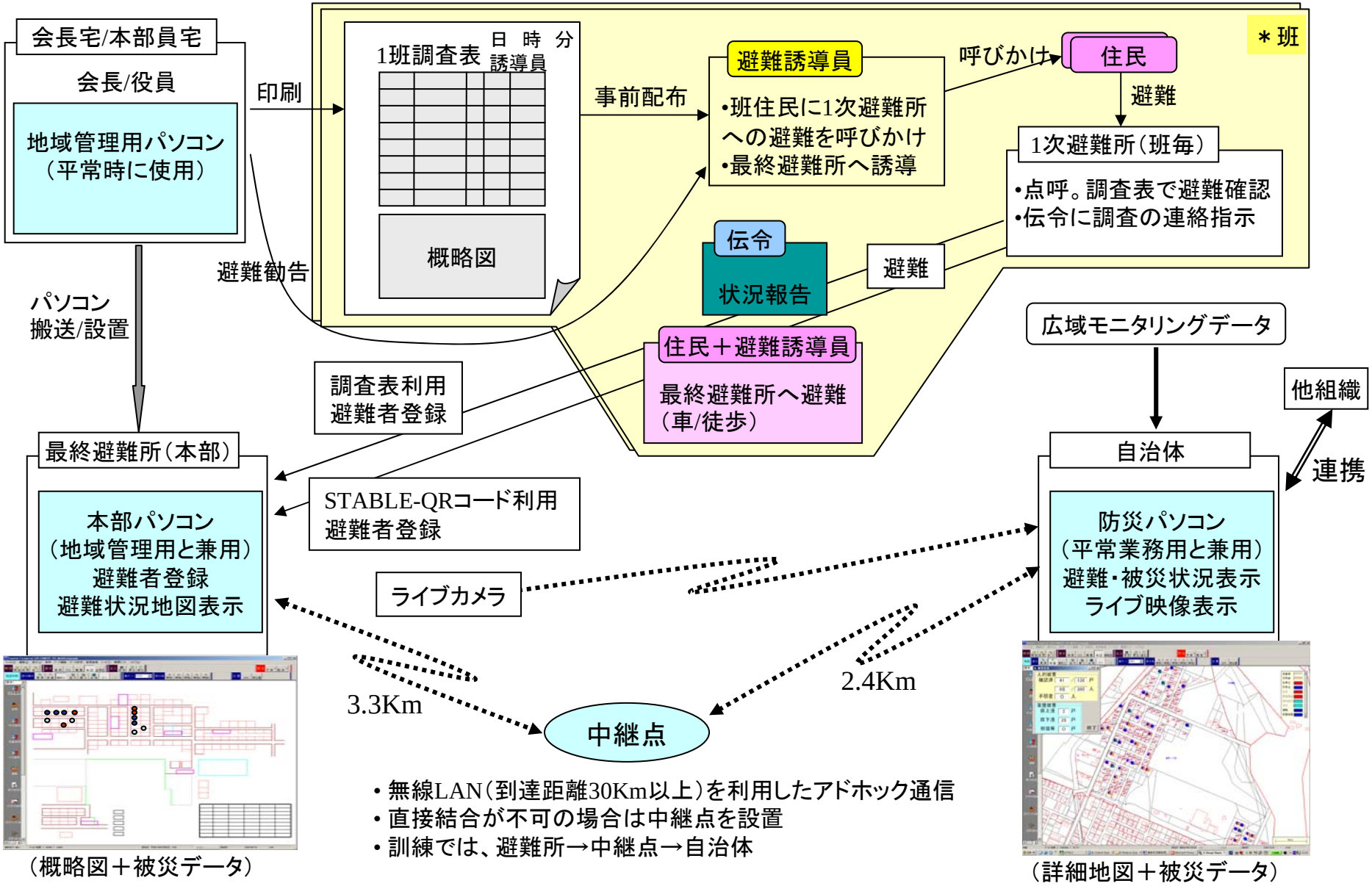
防災への適用
訓練で評価・改良

他の地域へ導入(個別要求を実装)

プログラム変更を伴わない応用拡大が可能なシステム
STABLE(平常時＋防災応用の実装可能な汎用システム)

時空間情報システム（STABLE）による避難支援・安否確認

- 地域コミュニティ：独自作成の概略図、自治体：町全域の詳細地図をそれぞれ利用して、避難情報や被害状況を表示して状況を把握。
- 避難者の認証と安否の把握は、集計表、STABLE-QRコード（家屋位置を登録）の利用によって効率的化。
- 被災情報、ライブ映像などは、自治体や地域コミュニティの関係者の手で設置できる無線LANを介して共有。



- 無線LAN（到達距離30Km以上）を利用したアドホック通信
- 直接結合が不可の場合は中継点を設置
- 訓練では、避難所→中継点→自治体